

おひさま通信

自治活動

～仲間が生活の
主体者として～

蓮田はすの実作業所

2005年4月から蓮田はすの実作業所がみぬま福祉会の運営となりました。今度の4月で10年となります。

運営を始めた当時、職員が仲間のことを考えて、さまざまなことを決めているような状況でした。

しかし仲間たちもその論議の中に入ってほしい、自分たちのことを自分たちで決めよう！という想いの中で、運営開始当初より、月に1回の全体会を始めました。

イベントの内容決め

日帰り外出をする場合では、どこに行くのか？というところから始めました。仲間たちからはさまざまな

自分たちで「学ぶ」取り組み

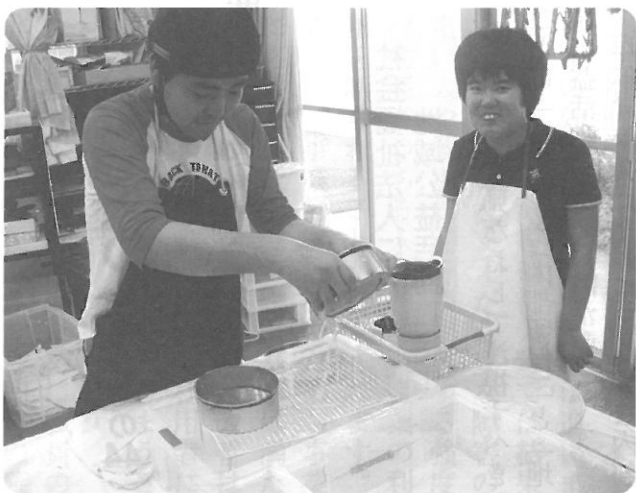
今年度新しく「学習会」を行いました。以前作業所が、デイケア施設から障害福祉サービス事業所（生活介護）に移行するときには、職員主導でしたが学習会を行いました。

今年度は、「仲間たちが今知りたいたいことを知っている人に聞いてみよう！」をテーマに、10月には今の自分たちに関わる制度についての学習会を実施。そして今後仲間たちの知りたいテーマとして「暮らしの場について（太陽の里やサンライズなど自分たちの身近な施設での暮らしを知りたい）」「健康について（なかなか減らない体重をどうにかしたい。どうすれば健康でいられる？）」「など、身近なことや、将来に向けた視点などが含まれています。

作業所の移転

蓮田はすの実作業所がある場所に、新しいサービスエリアができることになり、近い将来移転することになっています。もちろん建物も新しくなるのですが、それでも「自分たちが使う場所だから、自分たちの意見を聞いて作ってほしい」ということになりました。

そこで要望書を作成し、市長に届けようということになりました。今



意見ができました。

仲間たちの意見は、経験のあるところ（行ったことのある場所）がほとんどでした。そこで職員の意見も一緒に出し、みんなで検討しました。蓮田市やさいさいいきいきフェスティバルなどのイベントにむけては、出品する製品の検討と一緒にを行いました。仲間たちの意見は前記同様、経験のあるものがほとんどでした。

職員も一緒に意見を出すことや、さまざまな製品づくりをしていく中で、仲間たちの経験という引き出しが大きく、徐々にではあります。が、「〇〇を販売したい」という意見も出てくるようになりました。



の作業所にある機能を見直して、今はないけれど、必要だと考えられる機能を入れて要望しました。話し合いの中では、自分の意見をなかなか言えない仲間の想いも、仲間同士で代弁していました。

「今の仕事を続けられる部屋」

「車いすの仲間も使いやすいロッカー」

「地域の人も入ることのできる空間」などの要望をまとめ、自分たちで直接、蓮田市長・関係各課の人に渡すことができました。

その成果として、すべてではありませんが自分たちの意見も取り入れられた設計がされてきています。

年に1回の旅行では、ある年は旅行会社から出されたプランに基づき、職員が写真等を使用し、仲間たちに伝わりやすいものを作成し、プレゼンテーションをしました。仲間たちは写真を眺めたり、触ってみたい、じっくり選ぶ仲間や、即答できた仲間などいろいろな様子がみられました。

また違う年には、関東近辺の地図を広げ、これまで行ったところ、みんなが行ってよかったところなどを参考に行先を決めることもありました。

その話し合いの中から、自分たちの意見が実現すること、自分とは違った意見・視点を持つ人の意見が聞けたりする経験を積んでいきました。

職場の一員、家族の一員として

初年度から、母の日・父の日のプレゼントをみんなで作っています。

ある年には母の日には、オーブン陶芸を使用して「はしおき」を作成、父の日には染め粉を使用して「染めハンカチ」の作成をしました。

仲間たちは、作業所の一員であり、社会の一員であり、家族の一員なのです。そこでは「初めてプレゼントをもらった」など喜びの声を聞くことができました。

仲間たちが生活の主体者として、自分たちの生活のことを想う。少しずつですがはすの実作業所の仲間たちにもでき始めているような気がしています。

それは、自分たちの想いを伝える場所があること、想いを聞いてくれる人がいること、実現に向けて一緒に考えてくれる人がいること、つまり「仲間」がいることが、生活を豊かにしていくのだと思います。

仲間討論会に参加

みぬま福祉会30周年記念事業の1つとして、仲間討論会が行われました。各施設の自治会メンバーが集まり、「働く」「暮らし」「夢」についてお互いの意見を交わしました。

はすの実作業所の自治会「仲間会」のメンバーも参加をしました。全5回の討論会、式典当日の発表、振り返りの集まりを通して、仲間も担当職員も多くのことを勉強させてもらいました。

いろんな施設の仲間たちの活き活きとした主張、意見の伝え方、仲間同士での想いの共有、代弁の仕方、信頼関係。

特に太陽青年隊の仲間たちの結びつき方などは多くの刺激を受けました。仲間同士の信頼感などが伝わり、いつかはすの実作業所の仲間にも、



作業班の編成の中で

2009年にこれまでの作業班体制を大きく変更し、2つの班、4つのグループという、現在の体制になりました。また仲間たちの自治会（仲間会）の他に、給料委員会ができました。メンバー構成は仲間会・給料委員会ともに、各グループから1名、一緒に働くグループメンバーの代表・代弁者として、さまざまな検討や発信をしていくれています。

仕事については給料委員会、その他全般については仲間会という役割分担ができています。



と期待をしています。

今回、30周年記念事業という集まりでしたが、せっかくお互いの自治会メンバーと、みぬまの仲間たちが集まったのですから、今後も続けていきたいと思えました。

現在の制度の中では、個と施設との関係の中ではありますが、仲間が生活の主体者として、自分らしく、そして社会の一員として生きていくためには、集団が必要であり、その集団が前進するための自治活動が必要なのだと感じました。

蓮田はすの実作業所職員 大熊 恭之